

## 保健・医療領域におけるソーシャルワーク・スーパービジョンの現状と課題（1）

## —スーパーバイザーが扱う内容とその困難—

金城学院大学 浅野正嗣（00693）

日本福祉大学 山口みほ（002554）

キーワード：スーパーバイザー 扱う内容 困難を感じること

**1. 研究目的**

ソーシャルワーク・スーパービジョン実践は機関や担当者ごとに工夫されさまざまな取り組みが行われているが、具体的な方法は標準化の途上にあるといえる。だが近年、日本社会福祉士会をはじめ福祉関係団体のスーパービジョンに対する取り組みは目覚ましく、その重要性の認識は一層高まりをみせている。スーパービジョン実践のスタートラインともいえるスーパービジョン実践の方法論の標準化を促進させるためには現在のスーパービジョンの取り組み状況を把握することが不可欠である。本研究は保健・医療領域のソーシャルワーカーによるスーパービジョンの現状を明らかにし、課題を抽出することでソーシャルワーク・スーパービジョン実践及び研修プログラムに資することを目的とする。

**2. 研究の視点および方法**

日常的に行われているソーシャルワーク・スーパービジョンで扱う内容、困難に感じること、スーパービジョンの構造、効果などを明らかにする。そのため日本医療社会福祉協会などで報告者が担当したスーパービジョン講座の受講者を対象にアンケート調査を行った。

## 1) 調査対象者

2009年から2013年に浅野らが講師を務めた職能団体及び研究会（日本医療社会福祉協会、愛知県医療ソーシャルワーカー協会、尾張スーパービジョン研究会）によるスーパービジョン講座（研修会）の参加者219名を調査対象とした。

## 2) 調査方法

調査対象者にアンケート用紙を郵送し、調査対象者が記入した後発送者に返送した。

## 3) 調査項目

調査項目は以下の6項目とした。

- ①基本属性
- ②スーパーバイザーがスーパービジョンで扱う内容
- ③スーパーバイザーがスーパービジョンで困難を感じること
- ④スーパーバイザーのスーパービジョン事例
- ⑤スーパービジョンで困難を感じることへの対処方法（自由記述）

## ⑥スーパービジョンに関する考えや意見(自由記述)

## 3) 調査期間

2013年11月1日～11月30日

## 3. 倫理的配慮

- 1) 被調査者に対して文書で守秘義務及び回答の自由について明記し示した。
- 2) 被調査者が受講したスーパービジョン講座及び研修の主催者である日本医療社会福祉協会、愛知県医療ソーシャルワーカー協会、尾張スーパービジョン研究会に調査目的や内容などを文書で示し承認を得た。
- 3) 金城学院大学倫理委員会の承認を得た。

## 4. 研究結果

112名から回答を得た(回収率51%)。回答者の属性は30歳代が65名(58%)と最も高く、次いで40歳代が23名(20.5%)である。ソーシャルワーク経験は6年～10年が54名(48.2%)と最も多く、11年～15年が26名(23.2%)である。スーパーバイザー経験者は47名(42%)である。認定社会福祉士制度・スーパービジョン実施要綱「スーパービジョン機能表」の項目別にみたスーパービジョンで『扱う内容』と『困難に感じること』の結果は以下である。47名のスーパーバイザーがスーパービジョンで『扱う内容』について相対的に高いもの(平均値)は教育的機能として「利用者理解と対応」「支援展開過程への視野」「支援技術や技法の展開」、管理的機能においては「業務内容の点検・整備」「業務関連情報の周知と遵守」、支持的機能では「自己覚知」「個人的解決課題の克服」「業務と職場の課題」である。一方、スーパーバイザーがスーパービジョンで『困難を感じること』については各項目ともに「ときどき感じる」と回答しており明確な差は見られなかった。

## 5. 考察

本調査の回答者の半数近くはスーパービジョンを意識的に実施している。スーパーバイザーとして『扱う内容』は機能別分類において教育、支持、管理機能それぞれの項目で差がみられ、スーパーバイザーはスーパービジョンの内容を弁別していることが伺える。一方、スーパービジョンで『困難を感じること』は各項目に大きな差はなく「ときどき感じる」レベルで、スーパーバイザーとしてとくに困難といえる問題は機能別分類の項目からはみられない。しかし、自由記述(スーパービジョンで困難を感じることへの対処)には「自信がない」「相談できない」「時間がない」「理解が得られない」などの問題点が明記されている。以上からスーパービジョンで『扱う内容』における項目別の頻度の意味や評価、課題などの検討が必要である。またスーパービジョン実践で『困難を感じること』の具体的な内容を類型化し、それらに対応した研修プログラムの検討が今後の課題といえる。本研究は対象の範囲が限定的であることから一般化することは困難であるが、今後のスーパービジョン実践研究の方向性が示唆された。